

チリ アジアと米国がブドウ、キウイ、サクランボの需要を押し上げ

[FreshPlaza 2025年6月5日](#)

ヴェルフフルーツヨーロッパ社のマネージャーであるマリア・エレナ・ヴィジャブランカ氏は、「今年は我々にとって非常に良い年であった」と話す(以下「」は同氏の話)。今シーズンは、コンテナの不足と高い関税のほか、同社が扱う主要果実であるキウイフルーツ、サクランボ、ブドウの品質と市場の拡大も特徴的であった。

キウイフルーツ：新しい市場の拡大と安定した価格

「チリ産キウイフルーツはヨーロッパで安定した市場を持ち、中南米市場とインド市場で成長している。今は出荷シーズンの真っ只中にあり、価格は非常に良い。現在、ヨーロッパでは、26〜27ユーロ/箱で販売されている。ギリシャとイタリアからの供給量が少ないことは、チリ産グリーンキウイフルーツにとって有利であり、英国のスーパーマーケットとの契約締結や、インドとブラジルでの取組みの開始を促進した。弊社は、需要の増加と輸出先の多様化により、2〜3年後に200万箱の輸出を達成すると予想している。」

サクランボ：物流への影響と教訓

ヴェルフフルーツ社のチリ産サクランボは、同社のコンテナを輸送していたマースク社の貨物船サルトロ号の漂流事故という、前例のない物流上の課題に直面した。「果実の大部分は事故の前に市場に出荷されていたため、実際の影響は懸念されたほど深刻ではなかった。来シーズン(2025-26年度)は、中国と米国を主な輸出先とし、日本、韓国、台湾への多様化にも改めて焦点を当て、500万箱に到達する見込みである。」

サクランボ委員会と同社の戦略は、「多様化と適切なサイズと品質の提供」、単一市場への依存の低減、及び新しい物流要件への適応を重視している。

ブドウ：プレミアムな品質と戦略的市場

「ブドウはヴェルフフルーツ社のペルーでの事業の中核であり、今シーズンは前シーズンよりも多い760万箱が輸出された。しかし、序盤には水不足と港湾の混雑により状況が厳しかった。コンテナの問題は我々に大きな打撃を与えた。コンテナはチリ産のサクランボの輸送に振り向けられ、その結果、ピウラ港(ペルー)でのコンテナの確保が一層制限された。」

「スイートグローブ、オータムクリズプ、キャンディハーツ、アリソンなどの種なし品種は、アジアと米国で際立っており、平均価格は2.9〜3ドル/kgで、レッドグローブの2.2ドルを大きく上回っている。一方、チリでは3月に出荷シーズンを終了したが、他の作物への転換により総出荷量に占める割合は減少した。」

物流は依然として大きな課題である。「関税は下がらず、輸送時間も改善されないだろう。」それでも、同社は垂直統合モデルとスーパーマーケットとの直接的な関係に依存することで困難を克服し、プレミアム果実の供給を保証している。「アジアは、弊社にとって今後もずっとプレミアム市場であるだろう。」

執筆者：ダイアナ・サジャミ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)